

こんな時期ですが、令和6年度の報告です！?

役員会からの報告



本年度は総会以後、支部での活動や本部行事への参加等まったくありませんでしたので、3月7日に行われた役員会の報告をもって一面の記事とさせていただきます(実は昨年もトップ記事がなくて同様だったのですが...)。

と言って特別変わったことはなく、例年通り本年度の振り返りと来年度総会の計画が話し合われました。令和7年度総会につきましては、下記をご精読いただき、ぜひご予定のほどお願いいたします。

もう一点、ずいぶん以前よりお知らせのとおり再来年(令和8年)度が結成10周年となり準備を進めているところで、その進具合の確認や今後の計画が話し合われました。8月発行の『黎明』19号にて正式に発表、ご案内ができればと思っています。お楽しみにお待ちください。

また、今年度が役員任期となり来年度以降の役員編成が話し合われました。規約に則り支部長と監査は総会の折ご提案、ご承認いただきますが、幹事は支部長の委嘱にてどなたでもまた何人でも就任いただけますので、興味のある方、お志のある方にはどしどしご参加いただければと思っています。どうぞご一報ください。

なお、常時新規会員を募集しています。どうぞお近くに校友がおられましたらどうぞ会員登録をお勧めください。老若男女を問いません。一人でも多くの方と京滋での思い出を共にできればと思うところです。

〔事務局・大江〕

2025年度・北豊支部総会のお知らせ

【日時】2025年6月19日(木)

◆総会 / 17時～17時45分

◆総会記念講座 / 18時～19時

講師 唐鎌美鶴氏

講題 『お鶴さんの川柳講座(仮)』

◆懇親会 / 19時10分～21時(終了予定)

【会場】アートホテル小倉ニュータガワ

小倉北区古船場町3-46 ☎093(521)7000

*後日改めてご案内申し上げますので、取りあえずご予定をお願いいたします。なお、総会は会員(校友)対象ですが、記念講演・懇親会は校友以外の方でも結構ですので、ご家族ご友人等お誘い合わせてご参加ください。

講師紹介

北九州市在住の川柳作家。柳名「お鶴」さんとして、3年前には毎日新聞の人気川柳コーナー「仲畑流万能川柳」にて1千句掲載を達成するほか、各種川柳コンテスト大会にて受賞多数。現在は講演や全国の企業、諸団体の川柳大会の選者としても活躍し、小倉・京町銀



天街掲示の川柳コンテストもその一つ。句会「セブンティーン」を主宰。

- ▽ペ・ヨンジュン私に会わず結婚し
 - ▽悲しいを悲しかつたにする明日
 - ▽お見通し猫のうす目にそう言われ
 - ▽千切りのキャベツ怒りの量になり
- (句、写真ともホームページより抜粋)



私は現在、宗門校である敬愛中学校・高等学校に奉職していますが、昨年より新たに本会に参加させていただくこととなりました。会員の多くの皆さまには本校の教育活動にご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年の秋、久し振りに深草学舎を訪れる機会がありました。「顕真館」以外は在学中とはまったくと言っていい程の変わりようです。キャンパス内には芝生があり、ここでは学生がレジャーシートを広げてお弁当を食べたり、楽しそうに語り合ったり寝転がったりしている様子も見られます。

そんな中まだ工事中の場所もあって、今後ますます変化していくのだろうなと思ったことでした。同時に、大学生に戻れたらさぞ楽しかろうと思いいましたことでした。

私が龍谷大学を卒業してからほぼ30年の年月が過ぎ去りました。改めて時の流れの速さに驚かされます。その大学生の頃を振り返ってみますと、とにかく学友会活動に明け暮れた学生生活だったように思います。

入学後しばらくして、他の1回生よりかなり遅れて伝道部に入部しました。それから間もなく、ようやく部の活動になれたころ宗教局本部に派遣されることになりました。そもそも同回生が少なかつたこともありすが、

先輩から命じられたことには逆らえない雰囲気の中で、よくわからないまま局本部での活動が始まりました。

最初は戸惑うことばかりでした。昼と夕方に「受け付け」と称して各クラブと局本部間で事務書類をやり取りする時間があり、そこでやり取りされる書類は専用の罫紙に決められた書式通りに書きされたもので、カーボン紙を使って複写されたものと合わせて割り印を押し、控えを残すようなこともしていました。そうしてようやく書き上げた書類に對

校友リレーエッセイ

学友会活動の日々

1997年・文学部修士課程修了

谷川 宏 濟



し最後に各クラブの公印(角印)を押すのですが、それが少しでも斜めになっていたり写りが悪かったりするとまた一からやり直しといったこともしばしばでした。また、時には学ランを着ることもあり、大学生になっても学ランを着るのかと衝撃を受けました。

そんな日々を送りながら1年が過ぎたころ、今度は中央執行委員会なるところに派遣されることになりました。元々は伝道部に入ったはずが、宗教局本部そして中央執行委員会とそれらの活動が中心となり、本来のクラ

ブ活動はほとんどできない状態でした。

それでも中央執行委員会の一員に加えていただいたお陰で、一つのクラブに所属しているだけではできない貴重な体験ができました。そのころ瀬田学舎(理工学部)ができたばかりで、その認知度を上げようと新歓イベントを瀬田で行ったり、始めての「夕照コンサート」開催に向けて大学職員の皆さんと一緒に活動したりもしました。このコンサートは今でも続いているようで嬉しく思います。

また何より、宗教局を始め体育局や学文局の各サークル、各委員会、さらに文学部だけでなくあらゆる学部の友人ができました。3、4回生になると毎日大宮と深草を往復する日々でしたが、本当にたくさんの出会いがあり、そこでの経験は私の財産となっています。

今振り返れば、もっと勉強をしておけばよかったと思うこともあります。大学時代のさまざまな経験があればこそ今の私があるわけで、こうして宗門校にお世話になっていることも、多くの方々に支えられていることも、龍谷大学でのご縁なくしては語れないことばかりです。

どうぞ皆さまには、今後とも公私ともにご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

「ホルモ」を存じますか?

「ご存じますか?」シリーズその6
いつもの余談です。校友会活動とは直接関係ないけれど、いよいよ他にニュースがなかったもので書いてみました。

小説や漫画で会社や学校名また地名など、実在のものを匂わず架空の名前かアルファベットで表記されがちですが、〈龍谷大学〉の名前がそのまま使用され、作品の中に頻りに出てくる小説をご存じでしょうか。それは『鴨川ホルモ』という、直木賞作家の万城目学氏のデビュー作にて出世作となった作品で、後には映画化もされました。

ときは1976年生れの著者が京都大学の学生だった頃、ところはその著者が学生時代を過ごした京都で、京都の東西南北に位置する大学の学生からなる「京都大学青竜会」「京都産業大学玄武組」「立命館大学白虎隊」、そして我が「龍谷大学フェニックス(本来は朱雀団だったが、ある時期の代表が女性でそれではカッコ悪すぎると改名された)」と、陰陽道に基づいて組織された4団体によりホルモなる競技がおこなわれる様子が描かれています(蛇足ながら、同志社大学はスピノフ作品の『ホルモ一六景』にて黄竜陣として登場)。ホルモなんて言葉聞いたこともない、



それはどんな競技かということは本編に任せるとして、小説そのものは青春ファンタジー小説と銘打たれ京都をよく知らない読者でも十分楽しめる内容ですが、京都で学生時代を過ごしたものとっては格別の思いを抱かせる描写が多々出てきます。

主人公が京大生のためどうしても龍大は脇役には違いありませんが、それでも龍大フェニックス第四百九十九代会長・立花美伽が登場するたびに〈龍大〉の文字を目にし、映画では深草キャンパスの正門が映されていきました(一瞬ですが)。

また、『ホルモ一六景』には龍谷大学朱雀団第四百九十八代会長の伊井直子が、ふとした偶然で京都産業大学玄武組第四百九十八代会長・榊原康と東京で再会したときの出来事が一編の作品となって掲載されています(龍大と産大の組み合わせなんてどの小説で読めるか!もちろん本編の面白さあつてのことですが、個人的には本編を踏まえての伏線回収の見事さもあつて『ホルモ一六景』の方が面白かったです)。

京都での青春をもう一度味わってみたいと思う人はぜひ読んでみてください。あの当時の何とも表現できない思いを思い出させてくれることでしょう。両作品とも角川文庫より刊行されています。



事務局雑感

▼3月7日の役員会を受けてぼちぼち発刊をと思っていたらもう4月です。諸事情ありますが、1ページにも書いたように総会以後特に活動がなかったため、何を書こうかと考え過ぎ、また躊躇してこんな時期まで引つ張ってしまいました。過去最高の遅延となり、面目ない次第です。▼私は本紙のほかにもう一紙発行していますが、その際何が一番困るといって、読者に伝えたいもしくは伝えるべき活動や情報がない場合です。支部活動は年に一度の総会以外特にありませんのでアンテナを張りつつ記事を作成していますが、必ず何かあるとは限りません。今回の「ご存じますか?」は書くことがないとき用にと取っておいたもので、ついに今回出番となりました。何か面白い情報があったら、ぜひお知らせください。お持ち申しております。▼ただその分、おかげで久しぶりに『鴨川ホルモ』、『ホルモ一六景』を読み返して、少し昔の気分を思い出しました。最近京都に行く機会も少なく、また行っても用事だけ済ませて帰ることがほとんどでなかなか龍大や木屋町にまでたどり着きません。時々話題に出るのですが、ぜひこの北豊支部主催で龍大キャンパスツアーを実施したいものです。その日を楽しみに、まず6月の総会でお会いしましょう。〔記・〇〕

龍大川柳★入選作発表

＊昨秋『校友会報』100号を記念しての〈龍大川柳〉募集が行われましたが、このたびその入選作が発表されました。ここに一部を抜粋して転載いたします。なお、詳細及び全文をご覧になりたい方は、龍谷大学校友会のホームページから『校友会報』100号をご覧ください。

大賞

ありがとう 百縁夕食 本当に



お坊ちゃん／現役学生

コロナ禍で、大学と親和会が学生の皆さんを想って企画した「百縁夕食」への感謝の気持ちが素直に伝わってきました。この「百縁夕食」は当時、新聞などにも取り上げられました。今はさらに発展し、「親和会サラダ」「百縁朝食」もでき、学生の皆さんの食生活を心配されている親心を感じます。



打ち上げで 増える友達 減るお金

あんまる／現役学生

打ち上げで友達の間は広がるけれど、財布が寂しくなっていくという切り口、おもしろいですね。時代は変わっても、学生の悩みは変わらない。

40代 未だ龍の字 二度見する

観月／卒業生

「二本だっけ？三本だっけ？」って一度は思ったことはありませんか？「龍」の字に…感じることはみな一緒と安堵する句かと思いきや、いえいえ、そうではありませんね、卒業しても「龍」の字に反応する卒業生の気持ちですね。

大宮の 木の揺れる音 砂利の音

ありきたりにつき／現役学生

大宮キャンパスに入った時の静けさが小さな音を描くことで表現されていて、大宮キャンパスの風景を思い浮かべることができると美しい川柳ですね。

今日もまた 逍遙の歌 記憶ない

はぐれ／卒業生

「逍遙の歌」に愛着を感じる人は多いはず。そして、「逍遙の歌」を歌う機会では飲みすぎることが多かった記憶が蘇ってきます。

皐月夜の 都を照らす 祝いの灯

赤獅子／卒業生

降誕会の風景、提灯行列をした後の初夏の鴨川の河原の喧騒が懐かしいと感じました。京都市内を提灯行列で歩いていく体験は、龍大生にしかならないと心に残る思い出です。

◎『校友会報』や校友会ホームページなどで募集されましたこの企画ですが、ご存じない方も多かったのではないのでしょうか。

私事で恐縮ですが、私はこの募集を知って、賞金目当てにすぐに応募しました（大賞賞金5万円）が、残念ながらすべて落選でした。またまた（!）令和7年度の総会記念講演も「川柳」で、もしかたこのような募集があったらそれを生かして再度挑戦してみたいと思います。皆さんも一緒にいかがでしょうか。

ちなみに私、事務局0の応募作は青春はここにあったと紫朋館鴨川に入りて学歌を歌う春降誕会提灯行列河原町

等々でした。お粗末！

